

## 【2024 SyDE 自主企画研修 実施報告】 2024.10.5～2024.12.6

サイエンス・デイ 2024 では、震災を直接経験していない世代が増える中で、防災意識の育成を目的とした体験型の学習企画を実施した。中越地震から 20 年という節目の年でもあり、宮城県沖の沈み込み帯に代表されるように、将来的に大規模地震が発生するリスクは依然として高い。そこで理学・工学・文学の各研究科の学生がそれぞれの専門性を活かして、地震や津波、火山噴火などの多様な自然災害を分かりやすく伝えるプログラムを展開した点が本企画の特徴である。

具体的には、建物の高さや構造によって地震時の揺れ方がどのように変わるかを工作や実験で体験するコーナーや、演示用津波造波水槽「つなみはかせ」を用いた津波の発生・伝播・浸水過程の可視化、2021 年に噴火した福徳岡ノ場を例にした軽石災害の紹介、さらにはスライムやシルキーサンドを活用して地図上に水害・土砂災害の危険性を視覚化する防災マップづくりなど、来場者が直感的に理解できる仕掛けを数多く用意した。当日は想定を上回る来場者が訪れ、展示内容の一部を変更したり、体験時間が長引くといった課題も生じたが、今後のアウトリーチ活動における運営改善の糸口が得られたことは大きな収穫である。

また、「サイエンスデイ・オブ・ザ・イヤー2024」へエントリーし、企画内容を 1 分間プレゼンテーションで紹介した。受賞には至らなかったものの、同時開催の「サイエンス AWARD2024」の授賞式を含む他団体の展示発表から多くのアイデアを得られ、今後の活動をより充実させるための刺激となった。特に、複数の専門分野が連携して防災にアプローチできる強みを活かしつつ、幅広い年齢層やバックグラウンドの参加者が楽しみながら学べる仕掛けづくりの重要性を再認識したところである。

股村祐希（理学研究科地学専攻・D3）・Shan Peng（文学研究科総合人間学専攻・D3）



展示例「水に浮かぶ石?!」展示ブース